

伐採地でふえる 花粉媒介昆虫たち



写真1 ハナバチ類の仲間であるハキリバチの一種

森林研究部門 森林昆虫研究領域

主任研究員 滝久智

ミツバチやマルハナバチをはじめとするハナバチ類（写真1）は、植物の蜜や花粉を餌とするために花を訪れます。そして、花粉を他の花に運び、植物が実をつけることに貢献するため、花粉媒介昆虫とよばれています。人目をひくような美しい花を咲かせる多くの植物は、ハナバチ類に花粉を運んでもらっています。

今回、茨城県にあるスギの人工林と、広葉樹の天然林を対象に、伐採直後を含めた様々な森林で、トラップを設置してハナバチ類の採集を行い、林齢とハナバチ類の多様性に関するかを調べました。

その結果、森林の林齢はハナバチ類の多様性に影響を与えることが明らかとなりました。スギの人工林でも、広葉樹の天然林でも、植林直後の若い森林では、ハナバチ類の多様性が高くなりました。特に、ミツバチやマルハナバチのように集団生活をするハナバチ類とは異なり、単独で巣作りをする

単独性ハナバチ類の種数

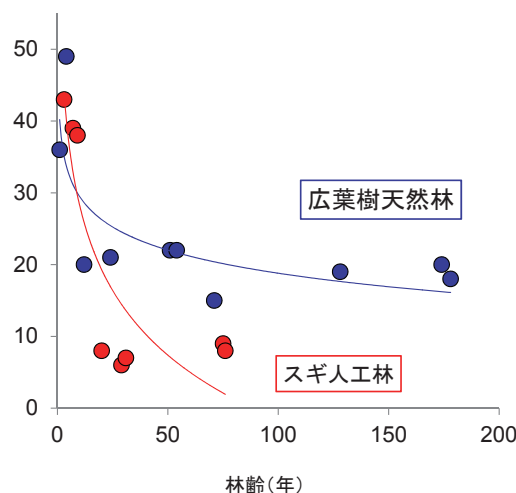


図1 単独性ハナバチ類の多様性(種数)と林齢の関係

青丸は広葉樹天然林を、赤丸はスギ人工林をあらわしています。

単独性ハナバチ類ではこの傾向が明らかで、多様性は伐採直後の若い森林で高く、林齢が高くなると減少しました（図1）。

このことは、木材生産を目的とした森林の伐採は、草地のような光の当たる明るい環境を作り出し、こうした環境はハナバチ類に住み家や餌をとる場所を提供するという、生物多様性にプラスの効果があることを示しています。